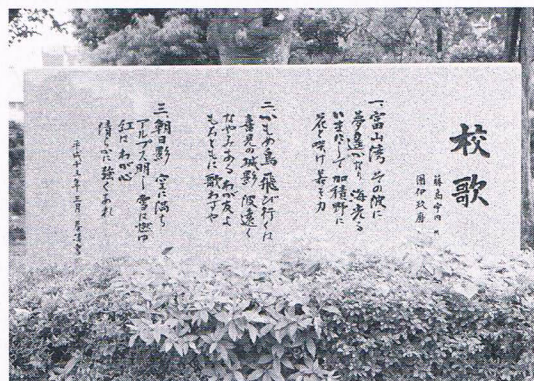


窓

— 同窓会だより —

No. 104 (平成 29. 8. 12発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



- 1・2面 同窓生寄稿
3面 同窓生寄稿 (48回生より)
4面 学校だより、魚高生の活躍

総合商社は、90年代後半から顕著な経営見直しとビジネスモデル変革を行い、今日では日本を軸とした貿易取引にとどまらず、エネルギーや金属資源、或いは機械、自動車、鉄道、航空機、社会インフラ、化学品、食料、繊維、ファッション、ICT、不動産開発等多岐に亘る産業分野でグローバルに事業展開する総合的な事業投資・事業運営会社へ成長しています。注目すべきは、収益規模の拡大もさることながら、口銭収入より投資収益が圧倒的に大きいという収益構造の変化です。

私は1972年に魚津高校を卒業後、早大、早大院を経て、1978年に総合商社の三菱商事株式会社に就職しました。グローバルな展開に強く魅かれたのです。同社では25年間在籍し、わが国情報産業の揺籃期である80年代半ばに首都圏での通信事業会社設立プロジェクトに参加した以外、殆どの期間をスタッフとして経済調査、ビジネスモデル分析・評価、地域戦略、経営企画等の職務に従事しました。その後、大学に戻り、企業の成長戦略やコーポレートガバナンスの仕組み等を研究、講義しつつ、富山にも関係が深いITホールディングス株式会社(現TIS株式会社)、株式会社インテックで社外役員、顧問を務めました。



このため、こうした総合商社の成長力の源泉については、近年、国内外の企業、シンクタンク、大学等から大いに関心が寄せられ、富山大学でも数回ゲスト講義を行いました。通例、総合商社の成長力の源泉は、①国内外の拠点ネットワーク網、関係会社群、多様な産業企業や機関との接点・アクセス網、知的資産等のビジネス基盤、②この基盤上で発揮される企業としての対応能力(商取引、情報収集、ロジスティクス、金融、投資等)に分けて把握され、これら経営資源の有機結合が肝要

総合商社の世界—その成長力の源泉—

早稲田大学産業経営研究所招聘研究員
桜美林大学非常勤講師

笹倉 優

(魚高24回)

と云われます。経営資源は豊富乍らも大規模・複雑性ゆえに、活かされるかどうかという所謂「多角化デイスカウント」への懸念もあり、従来から総合商社の重要な経営課題として認識されるものです。近年の成長ぶりは単なる貿易取引ではなく、事業投資や事業運営へのシフトにより齎されたものです。もちろん新興国経済の活況、資源価格の高騰等の追い風はありましたが、対面産業の開発・生産・物流・小売等の商流を捉えて、その有望な各段階で(子会社設立等により)収益機

会を得るバリューチェーン戦略を確立したこと、また、これら事業投資の適時入替を進めるポートフォリオ戦略を徹底させた意義は大きく、経営構造改革の成功事例として評価されて良いと思います。国内外で製造業やサービス業の子会社、関連会社を数多く持つことで、リスク管理と人材育成がより重大になることは言うまでもありません。こうした総合商社の経営環境を俯瞰した自らの付加価値の求めかた、収益機会の探索、実現する数々の打ち手は、一般企業にも示唆的な事項を多く含むように思います。富山県には総合商社の関係先がたくさんあり、社会人になり、随所で魚津高校OBにお会いし、一方ならぬお世話になりました。心より感謝致しております。現在、私は第一線を退き、都内で国際ビジネスへの向学心に溢れる学生を教えています。グローバル化が進む中、魚津高校から一層多くの国際ビジネスパーソンを輩出されることに期待しています。



20歳代後半、パリで

震災から6年、被災地のいま

魚津市役所

大黒 一 宏 (魚高46回)

宮城県塩竈市は、宮城県のほぼ中央に位置する水産加工業が盛んなみなとまち、どこか魚津と似た薫りのする街で、私はこの4月から勤務しています。派遣先は塩竈市建設部下水道課、担当業務は下水道災害復旧工事の設計・積算・現場監督、派遣期間は1年。

東日本大震災では最大震度6強、最大高さ8m超の津波が街を襲い、47名もの尊い命が犠牲になりました。沿岸部は埋立地が多く、震災の影響で最大80cmの地盤沈下が発生したことで排水機能が低下し、これまで浸水被害が無かった地域へも被害が拡大することとなりました。震災から6年が経過し、復旧が進んだことで一定の改善は見られましたが解消するまでには至らず、現在でも

市内各所で災害復旧工事が進められています。

私は今、雨水を貯める貯留施設(貯留量留量5、000m³)を公園の地下約



4mの深さに設置する工事を担当しています。これまで経験したことのない工種、仕事の規模に赴任当初はかなり戸惑いましたが、周りの方々に助けていただきながら日々業務に励んでいます。私の力が少しでも塩竈市の復旧復興の手助けになれば幸いです。

私の他に宮城県、神奈川県、愛知県碧南市からも職員が派遣されており、塩竈の新鮮な海の幸、美味しいお酒を共に味わいながら、日々親睦を深めています。また、仙台市内のラグビーチームに所属し、高校で始めたラグビーを今でも楽しんでいます。

人と人との繋がりを大切にしながら、塩竈市の復旧復興のために1年間全力で頑張ります。

誇りある弁論大会としての 発展を願って

村田 まゆみ (魚高27回)

「弁論大会を誇りある大会にするにはどうすればいいのか」これは、魚津高校在職時、みんなで取り組んだ課題でした。

弁論大会は先輩方から受け継いだ魚津高校ならではの行事ですが、数年前までは、どこかもの足りない感が否めませんでした。評論や社説をアレンジしただけのもの、生活体験発表の域から抜け出せないもの、原稿を終始見ているもの等。誰もがレベルアップの必要を感じている中、私自身も一から勉強していくこととなりました。

見えてきたのは、自分の体験から感じたことを土台にし、他の事象と結びつけて、社会の問題として主張するという弁論の基本を押さえることでした。また、全校生徒が原稿を書いても思いました。

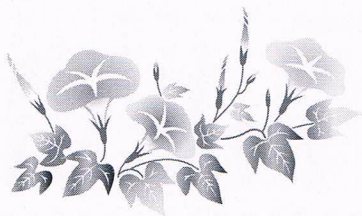
こそ、底上げができる

そんな折、私は、県

の高文連弁論専門部の事務局を引き受ける機会を得、今年三月退職までの四年間、県大会等の運営をさせていただきました。県大会や全国大会から直に学んだことで、校内生徒の指導に生かされたことも、多々ありました。

最近では、校内大会は全員が原稿を書き、クラス予選を行っています。自分の感じた課題に正面から向き合い、勇気をもって演壇に立つ生徒の発表には「驚いた！自分も頑張ろうという気にさせられた」という声も上がります。私自身も心を揺さぶられることしばしばです。

選挙権年齢が十八歳に引き下げられた今、自分の頭で考え自分の言葉で発する弁論は、その重要性が増してきていると思います。先輩方の心意気を受け継いだこの大会が、魚津高校生を大きく育て、誇りある大会として発展していくことを願っています。



あれから22年

今年度幹事学年（48回生より）



高志の国文学館 主任

菅田 智雄（魚高48回）

校庭のヒマラヤ杉に思う

太い幹を天に向けて真っ直ぐに伸ばし、地上高くに枝葉を広げている……。母校の校庭にあるヒマラヤ杉の雄姿を前に、「魚高生である私もこうありたいな」と思ったのが、今から二十数年前のこと。同窓会の幹事学年となり、打合せ等で母校を訪れるたびに、実力はないのに、志ばかりが高かったあの頃のこと、が、むずがゆい思い出として甦ってきます。

中国の思想に魅せられ中国に留学したものの、帰国後は教職に就き、今は「高志の国文学館」で富山ゆかりの文学を幅広く紹介する仕事に携わっています。教師としては中国語を交えて漢文を指導し、今の職場では中国・台湾からの観光客を前に中国語でガイドをすることもあります。自分がこれまで学んできたことを何かしら生かせることに喜びを感じつつ毎日を送っています。地域や人とのネットワークも広がってきました。木にたとえるならば、幹からようやく枝葉が伸びてきたところでしょうか。

魚津高校という滋養豊かな土壌から栄養をいただきながら、また少し自分を成長させていきたいなと思っています。

紅の絆



魚津市議会議員

浜田 泰友（魚高48回）

魚津高校在学中、私は優秀な生徒でも目立つ生徒でもありませんでした。勉学も人付き合いもそこそこに、社会をあまり意識せずに日々を過ごしていたと思います。

30歳になるときに転機が訪れました。県外就職をしていた私はUターンを機に政治の道を目指すことになりました。地元の政治家に若い人が出ないのであれば自分がやろうと思い立った訳ですが、政治経験もない、友達も少ない状態で、活動基盤を築くことに苦労しました。そこで助けになったのは魚津高校同窓の諸先輩方です。「後輩を応援するのに理由があるか」と公私ともに支えていただきました。

今は魚津高校出身の首長・議員が年1回集まる機会を作っています。「紅はわが心」のフレーズから紅の会と名付けられました。先輩方の名門魚津高校への想いは熱烈で、話が始めると語りつくせないまま、夜が更けていくのです。紅の会には同級生が私を含めて3名います。

これも母校がつないでくれた絆。ふるさとのまちなため、ともにがんばっていきます。

『友』を得た高校時代



弁護士

坂木 寿和（魚高48回）

高校時代、部活動のラグビーで毎日グラウンドを走り回っていました。ハードな練習がしんどかった印象が残っています。

卒業後、関西の大学に進み、奈良県の法律事務所で弁護士をしていました。昨年にUターンし、富山市内で法律事務所を開きました。故郷とはいえ、20年のブランクがあります。同じ業界に知り合いもいません。独立し、不安が多い中での開業でした。

事務所開きの日に、駆けつけてくれたのは、高校の同級生たちでした。部活動でしんどかった思い出だけではなく、友人たちと楽しく過ごしたあの頃の記憶もよみがえりました。それと同時に、安堵感がわきました。

「なやみあるわが友よもろともに歌わずや」。魚津高校の校歌の一節を思い出しました。

このような友人を得ることができた高校時代は本当に貴重な時間であったと思います。

それぞれに家庭や仕事があり、頻繁に会うことはできませんが、高校で出会えた縁をこれからも大切にしていきたいと思っています。





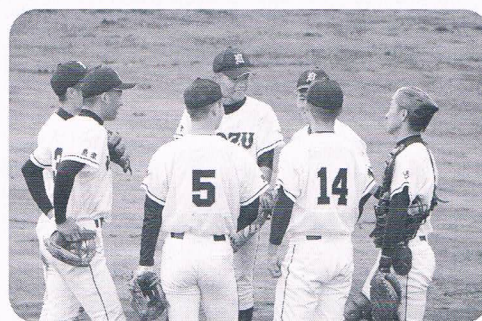
入学式 (4/10)



生徒総会 (4/28)



球技大会 (7/4)



第99回全国高等学校選手権大会富山大会 (7/17)



魚高生の活躍

(平成29年4月～8月)

○春季大会

- ・女子バスケットボール部 ベスト 8
- ・女子バレーボール部 ベスト 8

○県高校総体

- ・女子バレーボール部 ベスト 8
- ・水泳部

男子個人メドレー	3 位	石崎 健太
男子800mリレー	2 位	山本 稜弥
		中島 颯太
		石崎 健太
		館 慧樹

・陸上競技部

男子三段跳	2 位	青木 稜吾
女子三段跳	6 位	佐渡 菜月

・柔道部

男子個人66kg級	5 位	板澤 俊介
-----------	-----	-------

○第53回富山県高等学校将棋選手権大会

- ・将棋部
- 男子個人戦 5 位 栃林 捷太

○全国高等学校ダンスドリル選手権大会2017甲信越大会

- ・ダンス同好会
- ヒップホップ男子部門スモール編成 1 位 全国大会出場
- ヒップホップ女子部門スモール編成 1 位 全国大会出場
- ヒップホップ男女混成部門スモール編成 1 位 全国大会出場

○高校生スピーチコンテスト2017 in 新川

- 最優秀賞 長谷川 陽

第41回全国高等学校総合文化祭 宮城大会出場

- ・新聞部門 浜浦 樹 布目 康敬
- ・弁論部門 山谷 晟也
- ・囲碁部門 佐々木孝之

原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか？自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。

富山県立魚津高等学校同窓会

〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地

TEL (0765) 22-0221

FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ

<http://www.nice.tv.jp/~gyokou/index.html>

魚津高校ホームページ

<http://www.uozu-h.tym.ed.jp/>